



Happy graduation to you! Beginning of a bright future!

卒業を迎える75回生の皆さんは、高校在学3年間でコロナ禍の影響を受け、マスク生活や行動制限を余儀なくされ、文化祭や体育大会などの学校行事や国際交流でも大きな制約を受けました。1・2年生も中学時代から引き続いて同様です。

「これまでできていたことが制約を受けた『かわいそうな世代』」という見方が一般的ですが、反論・非難を覚悟して敢えて言うと、「これまでやってきたことの不要・無駄をスリム化し、(苦肉の策で不十分ではありましたが)代替策としての新たなアプローチが見出された『変革の第一世代』」と肯定的に捉えることも可能です。また、ダメージに対する復元力・「Resilience」は確実に育まれたのではないのでしょうか。

自分自身も、関係する他者も、所在する社会や世界、また時代も、「完璧」はあり得ません。多かれ少なかれ「イイところ」と「ワルイところ」があります。皆さんより上の世代も、「戦争」「バブル崩壊」「震災」などのスケールの大きなダメージを負っています。特に近年では「ワルイところ」に目が向きがちですが、そればかりでは毎日がやり切れなくなります。現実逃避で「イイところ」ばかり見るのは考えものですが、「ワルイところ」への対応を図りつつ、自分自身や自分を取り巻く環境の「イイところ」を発見・重視して歩いていく方が、人生が豊かになり、学問研究やビジネスのチャンスにもつながるのではないのでしょうか。

皆さんは、「Be Global!」「Be Ambitious!」「Be Attractive!」を掲げる三木高校の生徒(卒業生)です。スピードを上げて変化し続ける世界にただ流されることなく、諸状況を俯瞰的・多面的・肯定的に捉えて、「自分らしく」主体的に人生を歩いていきましょう。

〔国際・探究推進部長 田尻 淳〕



実用英語技能検定

現在、第3回英検の結果待ちのタイミングですが、現在(2/17時点で)把握している合格状況です。校外受験など、含まれていないものもあるかもしれませんが、ご容赦ください。

	3年生	2年生	1年生	合計
2級合格者数	47(13)	13(3)	0(0)	60(16)
準2級合格者数	77(17)	43(6)	12(9)	132(32)



() 内数字は国際総合科。

SDGs Curry ♡

昇降口の掲示板でも案内されていましたが、2月17日（金）、食堂が「SDGs 企画」として、食堂で食べる場合に限り、「カレー200円！」という企画をしてくださいました。

なぜ、食堂の話題をここで取り上げるのか、分かりますか？

この企画、前に紹介しました2年生の探究班が、彼らの研究の趣旨に賛同してくださった製パン会社からパンの提供を受け、食堂でラスクを作っていただき販売した活動に端を発するんですよ。

「生徒さんたちがSDGsをテーマに学習していることを知り、私たちにも何かできることはないかと考えて企画しました。」

とは食堂の方の弁。皆さんの地道な活動が、こうやって少しずつ広がっていき、世界を変えていくんですよ。

プラゴミについて探究していた国際総合科2年生のグループによると、発泡スチロールの使い捨て容器は欧米諸国の多くでは禁止されていて、“2020”の東京五輪は、「使い捨て容器が使われた最後のオリンピックになるだろう」と言われているとのこと。さらには、私たちの教室のゴミ箱に入っている70ℓのゴミ袋は1枚約40円（トイレなど大きなゴミ箱で使っている90ℓのものは1枚約50円！）もするんですよ。ゴミの少量化なんかも「小さな一歩」なのかもしれませんが、その積み重ねがどれだけ大きなことに繋がるか。

そんなことをちまちまやっても仕方がない？ じゃあそれをもっと多くの人に効果的に伝えれば良いんですよ。そのために磨くプレゼンテーション能力なのです。

（ちなみにラスクの売り上げ9,440円は三木市社会福祉協議会に寄付されました。）



今後の予定…

前号でも書きました、学期末の予定です。

前号では、**3月2日（木）**の三木市国際交流協会「出前講座⑥」と、**15日（水）**の「グローバル講演会」、そして、**16日（木）**の「総合的な探究の時間 学年発表会」についてもお知らせしましたが、今日はもうひとつ、**フランスとの交流事業**について案内します（授業時間割内のことなので、これは国際総合科だけなのですが…）。

2025年に開催される大阪・関西万博に向け、三木市はフランスとの交流プログラムのモデル事業を行う自治体として政府から選定を受けました。市内の中学校でもフランス文化の紹介をするイベントが開かれたり、フランス総領事との意見交換が行われたりするそうですが、三木高校にも、3月7日（火）、仏政府公認の文化機関から仏語の講師が来られ、授業を行っていただきます。この交流事業では、京都にあるフランス政府の広報センターで三木の金物や日本酒が紹介されたりするのだそうですが、これも、探究の授業でフィールドワークを行った三木に残る唯一の酒蔵、稲見酒造さんがIWC(International Wine Challenge)で賞を取られたり、また、常に大使館や領事館に日本酒をアピールしたりしておられたからではないかと想像します。地域を知り、世界に繋ぐ。そんな探究活動を今後も続けられればと願います。